

EFEL 2025 年度定期総会 議事録

議事録発行日：25年11月3日

定期総会日時：2025年10月18日(土)19:05—21:00

議事進行：水野会長

議事録作成：水野(文責)、与十田

参加者：16名

No.	氏名	卒業年	所属セクション	経験業種/職種	現住所	総会
1	越智恵子	1969	会話	塾経営	兵庫	○
2	根来繁雄	1970	---	化学	千葉	○
3	重成美雪	1975	社会学	教員	北海道	○
4	北尾妙子	1975	ディスカッション	旅行/塾経営	千葉	○
5	岸田茂	1978	政経	航空	愛知	○
6	水野明洋	1978	政経/ディスカッション	自動車/旅行	東京	○
7	杉本洋之	1979	政経	教員	奈良	○
8	田中博之	1981	ディスカッション	運輸(国際物流)/電機	神奈川	○
9	山下純一	1982	ディスカッション	教員/小売業	東京	○
10	松井茂哉	1982	ディスカッション	英語教育事業	大阪府	○
11	田坪紀美	1984	歴史	教員	大阪	○
12	丸谷一也	1985	ディスカッション	電機/モーター/医療	大阪	○
13	中塚裕己	1992	政経/ディベート	銀行	フィリピン	○
14	与十田将也	1997	ディスカッション	教員	兵庫	○
15	中務拓哉	2012	ディスカッション	運輸(国際物流)	神奈川	○
16	常深蓮太郎	2025	OCS	大学院	大阪	○
合計						16名

議題：

1. 開会挨拶・参加者紹介・議事	会長	水野 明洋
2. 審議議案 (1) (3) (4)はそれぞれ質疑応答/意見/採決		
(1) 2025年度レビュー 事業活動全般 財務・会計 監査結果	会長 副会長 監査役	水野 明洋 重成 美雪 田坪 紀美
(2) EFEL会員向けアンケート結果報告	実行委員	田中 博之
(3) 2026年度計画 事業活動全般 - 主な課題と対応 - 谷本杯大会継続課題	会長	水野 明洋
活動推進・広報 企画・総務 会費電子決済導入	副会長 副会長 実行委員	山下 純一 松井 茂哉 田中 博之
(4) 2026年度予算計画 財務・会計	副会長	重成 美雪
3. その他 ①創部60周年記念イベント ②会長からのお願い ③今後のスケジュール	会長	水野 明洋
4. 閉会挨拶	副会長	山下 純一

2. 審議議案

(1) 2025 年度レビュー

2025 年度 事業活動レビュー 《EFEL 会員向け》

評価	活動内容	実績 及び【未達原因】
○	外大同窓会本部/各支部懇親会などの機会を活用したEFELイベントの開催	外大支部同窓会の総会・懇親会時に、EFEL懇親会同時開催
▲	各ブロック(地域) 及び年代別実行委員会議	ブロックリーダー会議は実施出来たが、年代別実行委員との会議は設定出来なかった。 【▲ 原因】 迷惑行為案件とその対応で時間取れず
▲	積極的にイベント参加して頂ける会員拡大	イベント参加して頂ける会員拡大出来ず 【▲ 原因】 名簿の整理や未登録者へのリーチアウトが不十分 会員参加意欲をそそぐ魅力ある企画不足
○	広報対象領域 拡大と掲載情報の質向上 インタビューメンバー拡大	EFEL会員への現役活動理解促進の為、 ESS現役 役員のインタビュー記事掲載
○	名簿連絡網見直し	EFEL公式LINE導入トライアルスタート * 25年8月より公式LINE機能を使って名簿管理準備 本格導入は2026年度より導入、詳細は2026年事業計画で説明
-	迷惑行為案件とその対応	コンプライアンスチーム結成 * 楽しいEFELにする為にチーム 25年8月よりスタート

2025年度 事業活動レビュー 《ESS向け》

評価		サポート内容	実績
○	継	対面でのESSとの交流会実施	ホームカミングデーに合わせて開催 【開催日】24年10月26日 【参加者】ESS:18名,EFEL:28名
○	継	第57回谷本杯争奪全日本学生 英語弁論大会運営サポート及びスピーチ指導 【第57回谷本杯開催日】24年12月1日	第57回谷本杯に向けてスピーチ教室実施 【講師】杉本洋之/田坪紀美/重成美雪/北尾妙子さん 【開催回数】:20回 【参加者】:延べ40名
◎	継	新入部員獲得サポート	EFELがESS役員メンバーと連携して新入部員獲得大作戦 展開 *25年5月時点 入部実績23名
◎	新	ドラマ発音中心に演劇指導	ESSドラマSECTIONより要望あり、発音中心に演劇指導 【講師】外部 【開催日】25年9~10月【開催回数】8回
○	継	異文化コミュニケーション座談会	EFEL米国在住/日本メンバーwith ESS現役生 【開催日】24年9月15日 【参加者】ESS:3名,EFEL:9名
-	継	ESS内アメリカ留学希望者との座談会 TOEFL勉強会	今年度はESS側からの要望が無い為、未実施

・水野会長から2025年度の事業実績の説明、ESS現役生に寄り添ったサポートは成果あったが、課題としてEFEL/ESS向けに有意義で役に立つイベント企画及び積極的にイベント参加して頂ける会員拡大出来ななかつた事が報告。

・重成副会長(財務・会計)から財務情報の説明、2025年度年会費/寄付金の総収入が127,295円、総支出が61,128円。EFEL基金については、今まで継続されている谷本杯等で約61,000円、それに加えてESS要望で2025年度よりドラマ演劇指導料62,000円が追加され、来年も継続して支援すると年間で約12万円の支出となっている。一方EFEL基金の期末残高は166,734円なので、引き続き皆さんからの寄付金をお願いしたい。

・田坪監査役より監査結果に関して、『収支計算書につき、会計基準に則りその用途に関して適正に処理されているものと認めました』との報告。

【質疑応答】 敬称略

丸谷：

今回ドラマで発音指導などをやっていただいた事は、非常に現役の皆さんの役に立っていると思います。講師の方は東京におられることから、東京と枚方の往復で3万円かかったとのことですが、これからもこういう活動をするとなった場合、同様の出費が発生しますか？

松井：

学生の方からの要望もあり、オンラインで指導した講師の方からも対面で見たいということで、実際に東京から外大に一回出向いてもらいました。私も同席しましたが、対面で全体指導を行うには大変良かったと思います。来年も ESS ドラマ SECTION からの指導要望があれば、対面指導を行う予定です。

丸谷：

東京から来て対面で指導して頂く方が、成果が出ると認識しておいたらよろしいですか。

松井：

もうそれはもう間違いないと思います。

丸谷：

オンラインでの指導も結構しっかりとやられたと思いますけれども、現役の反響はどうでしたか？

松井：

オンラインはまず個別でしっかりと指導してもらいました。全体指導は、なかなかオンラインで難しいですが、個別の指導はしっかりして、発音もよくよくなっています。個別対応で演技な指導とか、表現の指導もオンラインでやってもらいました。個々の対応は出来てきましたが、全体で動き含めて指導してもらう事が必要との事で講師に来てもらいました。今までに個別レッスン中心に 7 回ほど行ってきましたが、来週は学生たちに教室に全員集まってもらって、スタートから終わりまで全体をオンライン指導してもらう予定です。

水野：

補足させてください。今回、ドラマの支援に関しては、ESS からぜひお願いしたいと要望があり、EFEL 基金委員会でも合意をもらいました。EFEL 会員で大阪在住されている方を探しましたが、見つかりませんでした。最終的には EFEL 会員ではないですが、東京で実際に今演劇をやっておられる方、バイリンガルのプロの方にオンラインで指導をお願いする事になりましたが、先週 1 回のみ外大で対面指導をお願いしました。

丸谷：

よくわかりました。どうもありがとうございました。

別件ですが、寄付金で約 6.8 万円、EFEL 基金で約 6.1 万円の入金がありますが、現在、EFEL 基金の使用対象定義・定めはあるものの、この 2 種類の寄付金を将来合体する予定はあります

か？

水野：

先ほどの説明ありましたように、来年以降も今年と同じ ESS 支援を継続いき、EFEL 基金のお金が不足してしまいます。EFEL 基金の寄付が少ない場合、再来年以降で EFEL 活動資金からの補充が必要となるかもしれません。

※2025 年度事業実績レビューは収支報告(年会費/寄付金及び EFEL 基金)含めて全参加者賛成で承認

(2) EFEL 会員向けアンケート結果報告（決裁外項目：報告のみ）

EFEL 会員アンケートの結果報告 <概要>



回答率：41% (45/110)
期間：2025年9月～10月

1. EFELの活動についての**満足度は高い**
2. 活動では、「宴会・懇親会」より「**講演会・座談会**」期待が高い
3. 懇親会の頻度は**年間1～2回**が望ましい
4. 懇親会費用は**平均¥5,000**だが妥当だと思っている
5. EFEL年会費は現状の**¥1,000**が妥当だと思っている

田中実行委員より会員向けアンケートの結果を報告、EFEL 活動において 90%の満足度を示すとともに、宴会や懇親会の開催、講演会・座談会の実施、デジタル化による情報共有の強化が希望されていることを共有しました。

【質疑応答】

丸谷：

今回、斯様なアンケートを取っていただくアクション取りをありがとうございます。

結果見せていただいて、私的には講演会とか座談会の希望があるのは少し意外感がありますが、皆さんも思うところがあって、こういう風を感じておられるのだなとわかりました。

デジタル化に関しましては、会費等の入金およびその状況確認のデジタル化もされていることは非常に良いことだと思います。情報の素早い伝達という面において、ホームページに載せるだけではなく、イベントに関しても、限られたメンバーや一部グループ的に line 登録されている方々に限らず、今回全員が登録することで、他地域であっても 1 度に情報が共有できることは、非常に有効に活用できるのではないかなと、私個人的には思います。こういう活動をやっていたら、すごくある意味サポート活動の活性化に繋がるのではないかという風を感じました。

田中：

アンケートってというのはすごく重要な位置付けかと思います、あんまりたくさんアンケート出しすぎてもなかなか回答来ないかもしれませんけれども、ぜひお願いしたいなという風に思ったので、ちょっとコメントさせてもらいました。

いわゆる情報伝達っていうのは 2 つのタイプがありまして、プッシュ型っていうのが line とか Facebook とかそういったものですが、いわゆるこちらから対象に対して投げかける活動のことをプッシュ型って言っていて、これは Line です。それから、プル型っていうのもありまして、これは何かっていうと、ホームページですけども、そこには広範囲にいろんな情報が掲載されていて、必要に応じてそこへ会員を導くとユニレプル型と呼ばれますけども、この辺りのバランスをうまく取りながら、情報の共有を確実にかつ素早く行えるようにしていくことで、皆様の便宜に応えられるという風に思います。

アンケートについては、今回 44 パーセントぐらいの回答率でしたけど、これを上げていただくために、もう少し広報活動にも力を入れていきたいから、いろんなイベントあった中で、皆さんのそれぞれの回答をもらい、感触を見たいということで、来週、交流会と懇親会がありますけども、そういった活動についても、回答時間およそ 1 分から 2 分で回答できる程度のアンケートをこまめに出していきます。ただ、先ほどご指摘の通り、いっぱい出過ぎるとうんざりしますので、その辺りはちょっとバランスを考えながらですね。1 回こういうのに出て、結果が出てしまうと、ついなんでもかんでも聞きたくなりますよね。皆さんがアンケートでうんざりというのはちょっとまずいので、そこあたりは広報の山下さんのご意見、ご判断の下で展開していければいいかなという風に思います。

田坪：

今回アンケートをとっていただいたこと、そして、この、なんと分かりやすくまとめて報告していただいたことで、すごくいろんなことがわかってありがたいと思います。ここで言っているのかどうか分かりませんが、座談会、講演会が多いっていうのがありましたよね。それにちょっと付け加えたいですけど、私が書きたかったんですけど、アンケートに書く場所なくて言えなかった。講演会、座談会というような、同じような感じなんですけど、私なんか、個人の希望としては、EFEL 会員の中で、なんかちょっと英語でディスカッション

ョンしてみたりとか、なんかイリエイトがあったりとか、スピーチがあったりとか、真剣じゃなくていいので、楽しい程度で、お遊び程度でもいいので、みんなで英語で、なんか昔なつかしむじゃないですけど、自分自身の向上とかを目指すきっかけがあったら、もうちょっと英語やってみようかなとか、刺激があったり、楽しさがあったりとかあるので、そういうのもがあると楽しいなって思いました。

田中：

ありがとうございます。大変素敵なコメントで、ご提案も含めて、ぜひ検討させていただきます。今回アンケートを初めてやるにあたって僕が考えたのは、やっぱりどうしてもデジタルデバインドっていうか、まだまだ適応っていうのがそれぞれの広い年齢層でやる EFEL の場合ありまして、記入ということになるとですね、どうしてもこう、スマホでピチピチピチとかっていうのが出てきてしまうので、今回、初回なので、なるべく記述式は避けて、Yes、あるいは選択という形のボタン方式をメインで考えたのです。そこらへんの入力等に、皆さん、会員の方が問題ないようであれば、少しずつご意見を伺うと、例えば、不満足とか、あるいは、どちらかという不満足っている方に対して、どういった点ですかというような軽い投げかけとかですね。具体的にどんな提案っていうようなことを聞いていくような形もと言えながら、反応を見ながらですね、アンケートの方は向上させていければという風に考えております。コメントありがとうございました。

常深：

現役生の時の私がそうでしたが、忘年会や新年会、春のバーベキューなど季節の EFEL イベントをこれからも楽しみにしていました。毎年秋の学園祭、食事会など現役生の関わるイベントがあるだけで興味があるが学部生が増えると思います。

田中：

ありがとうございます。おっしゃる通りですね。こういう活動、ご提案いただいた活動、それから情報発信ということは、先ほどから申し上げておりますように、なるべくスピーディーに対応できるようにしていきたいと思えます。

(3) 2026 年度計画

EFEL会の主な課題と26年度の対応

役員会議及び実行委員会を受けて、26年度各領域の事業計画に反映

■役員会議メンバー ◆実行委員

提案者	25年度 課題	26年度 対応
■	会員拡大と名簿連絡網見直し	組織上空白(60%)となっている年代別実行委員の選出と各年代別の会員の増員を図り、EFEL会公式LINEを利用して連絡網の見直し
■ ◆	会員参加意欲をそそぐ魅力ある企画不足	会員からの要望を聞いて興味を主体とした交流会/講演会/座談会等のイベントを企画 *ウェブアンケート調査実施
■ ◆	若い世代(20~40代)の参画不足	若い人達のステップアップ 及び キャリアアップ等に役立つ企画立案 *ウェブアンケート調査実施
■ ◆	役員と各ブロック/年代別実行委員とのコミュニケーション不足	各ブロック/年代別実行委員との会議設定 *参加できる日程で小グループに分け、情報交換
■ ◆	HPに加えたSNSの活用不十分	EFEL公式LINE導入、Facebook等活用
■	ESS部員からの要望確認が十分できなかった *スピーチ教室は開催出来たが、就職相談会・留学前準備座談会は開催できず	ESS部員の寄り添い対面で要望を確認し、その要望に基づき各種教室・相談会・座談会の開催 経験豊かなEFEL会員から幅広く指導者/講師を募る

EFEL公式LINE導入

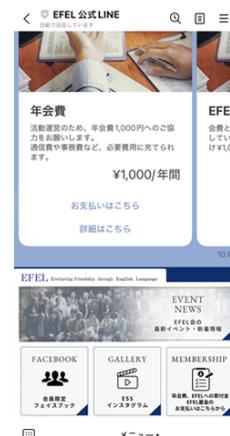
情報伝達スムーズ化、スマホからの年会費・寄付金の基金電子決済及び最新名簿管理が効率的に出来るように、公式LINEアカウントを10月25日から導入します。

EFEL公式LINE スマホ画面

【EFEL公式LINEアカウントで具体的に出来る事】

- ①メニューに、『電子決済』を導入。クレジットカードや Pay Payなどの複数の決済方法が可能。今後は郵便局/銀行に行くことなしで、簡単にスマホから年会費/寄付金の振込ができます。 ※Pay Pay決済を申請済みで承認待ち
- ②EFEL会員の方が、EFEL公式LINEに入って頂く時に登録をお願いする事により、最新連絡先情報が管理出来る事となります。
- ③メニューとして、現在HP・Facebook及びESSインスタグラムを見れるように設定。
- ④Googleフォームを添付してアンケート調査可能
- ⑤一斉LINE連絡する事ができます。

第三者に分からないように個別に管理者と会員との2-WAYでコミュニケーションもできます。
最初のステップとして費用が発生しないフリープラン (月額費用: 0円、無料メッセージ通数: 1,000通まで)



電子決済の実際

EFEL公式LINEで会費徴収のお願いが届きます。



年会費は¥1,000で固定です。
毎年お支払いください。

金額を入力してください。
できるだけ、¥1,000以上で
お願いしております。

- PCやスマホでお支払い頂くと、
1. 連絡先のメアドへ領収書が届きます。
 2. 連絡先の携帯電話番号へ納入通知がSMSが届きます。
 3. カード番号を入力
 4. お住まいの郵便番号、ご住所=電子取引法により必須

・松井副会長(企画・総務)より、情報伝達スムーズ化、スマホからの年会費・寄付金の基金電子決済及び最新名簿管理が効率的に出来るように、EFEL 公式 LINE アカウントを 10 月 25 日から導入して、クレジットカードや Pay Pay などの複数の決済方法が可能で、今後は郵便局/銀行に行くことなしで、簡単にスマホから年会費/寄付金の振込ができるとの説明。

・田中実行委員からスマホ画面にてシステムのデモを実施し、会員が年会費千円または寄付金をオンラインで支払う方法を説明。

【質疑応答】

岸田：

関西外大同窓会の公式ラインがありますが、そこで登録した人には、全て ID 番号を付加するというような形を取っています。それをすることによって、色々コントロールしやすいとか、そういうところが出てくると思います。データベースとかそういう形で振り分けしやすくなるのではないかと思います。EFEL では ID 番号管理されますか？

田中：

以前の役員会の中で、財務・会計の方からですね、そういう背番号制というか、そういうのをつければ入金処理がしやすいのかもしれないというような検討事項もありましたけれども、今のように、こういう形でワンタッチでお支払いいただければ、誰がいつお支払いになったのかっていうのは、こちらでも全部把握できるようにリストで把握できるようになりますので、今のところは会員に背番号をつけるっていうことについての検討は進んではいません。

松井：

背番号管理については、コンサルタントしてもらっている人に確認ときます。

岸田：

それともう1つ、金銭面とかそういうのが入ってきている中で、そのシステム、セキュリティに関してはどのような形で運用される予定でしょうか？

田中：

セキュリティというのは、どういったセキュリティですか？

岸田：

他の人が入ってきて、フィッシングとか、そういうようなことって出てくるじゃないですか。だから、そういうようなことのために、今こういうLINEの公式サイトっていうのがターゲットにされています。そのためにセキュリティを非常に強化してこうという動きがあります。やはり今後基金というものを考えていこうとする場合、どうしてもそれっていうのは大切になってくるかなと思います。

田中：

ちょっと漠としたお話で分かりづらかったのもう1回お聞きしますが、要するに、この会費の支払いとか基金、寄付金額に対するセキュリティということをおっしゃっていますか。それとも誰でも払えるっていうところが問題だとおっしゃっていますか？

岸田：

例えば入るにあたり、ログインとかそういう形で入っていけるのかどうか。誰でも入っていけるとしたら、やはりこういうね、お金は扱っているっていうところですので、その辺のところをどういう形でセキュリティを強化しながら防犯体制を強化していくのかっていうのが、どうしても僕は必要になってくると思います。

田中：

そのシステム全体をEFELで構築しているということはありません。ですから、他のプラットフォームを今は使って、会費の徴収とかも行います。入金、支払う側のセキュリティっていうのは、その代行会社のセキ

セキュリティの範囲で請求はされています。当然そこには ID とパスワードが設定してあり、それは一部の人間しか知らないということになっています。そのプラットフォームに対する外部からの侵入という意味でのセキュリティをおっしゃっているのであれば、それはプラットフォーム会社の責任です。我々の方ではコントロールできませんから。我々が今ここでお見せしているものっていうのは、あくまでも支払いなんていうか、代金回収会社のプラットフォームへの入口だけです。だから、支払えるものですから、誰かが入ってきて払ってくれるのなら、いくらでも払ってもらって結構です。でも、払われたお金をどうするのか。ゆうちょ銀行口座に移すとか SMBC の口座へ移すっていうところの部分はプラットフォーム会社のセキュリティで実施されています。ですから、これは普通の人では入れません。意味が伝わったでしょうか。僕が正しく理解してればいいんですけども、そういう意味であれば、プラットフォーム会社のセキュリティに準じているということになるかと思いますね。

岸田：

ベーシックなちょっと質問ですが、この公式ライン自体のセキュリティっていうのはありますか？

田中：

いつも皆さんが日々使ってもらえると思いますけど、そのラインのメッセージを見たり書き込んだりするの、いちいち ID とパスワードは必要ありませんよね。同じもんです。いわゆるラインというプラットフォームを使って運用していますので、ラインそのものを悪用するとか、ラインそのもののシステムが攻撃されたっていうことになれば、話は別ですけども、そこはラインがセキュリティを守っておると僕は思いますので、我々で手出しできる範囲ではありません。こう、プラットフォームっていう考え方と、そのおっしゃっているように我々が構築したネットワークシステムのセキュリティっていうことは、少し話を分けてお考えいただいた方がいいのかなと思います。我々がプラットフォームを自分で作って構築して公開する場合のネットワークにおけるセキュリティ、つまり、侵入を禁止するとか阻止するとかフィッシングを辞めさせるっていうことは、自分たちが構築する場合に必要なものであって、我々はセキュアされたプラットフォームを使っているということですね。これ以上は我々として何かセキュリティをということは実質上不可能ですね。お分かりいただけますかね。

岸田：

はい。いいです。

丸谷：

この公式ラインについて、今何人くらい登録がありますか？これから増えていきますか？まだテスト段階

なので全員は入れてないのかなと思いますが、状況教えてください。将来的に目指す登録人数を教えてください。

松井：

今は、テスト期間なので、役員関係者だけの 11 名だけです。テストをして目途が立ちましたので、10 月 25 日から全 EFEL 会員対象に登録を呼びかける予定です。現在、ブロックごとのライングループ、そういうのを全部合わせていただいた今の会員数、もう全てそこに集約できればとは思っています。おそらく 100 から 200 人ぐらいと想定していますが、最終目標としては、300 人ぐらいなればいいかなと思っています。

丸谷：

はい、わかりました。多くの方が登録されると良いですね。やっぱりいろんなアンケート取ったりするのもそうですし、できるだけ活用いただける方向であれば、お金をかけた価値があるという風に思っていますので、そこはよろしく願います。それから、会費の支払いですけれども、払い込み分とか何年分になるかを確認したい時はどうすれば良いですか？

田中：

EFEL 公式ラインより問い合わせして頂ければ、担当者より回答致します。

丸谷：

ご説明のありました振込手数料は、どういう場合にかかってきますか？

田中：

振込みされる方には、振込手数料は無料です。但し、インターネット決済代行会社を使いますので、EFEL 側で手数料 3.6%+α、皆さんから 1,000 円の振込で頂いた場合は、¥37~¥40 を支払います。決済の対する手数料の 3.6 パーセントだけで、維持とかいうのは、年会費とかそういうのはかかりません。

丸谷：

EFEL 公式ライン画面に表示されている『EVENT NEWS』ですが、ここに色々な懇親会ニュースとかそういうものが入るのですか？

田中：

そこをクリックして頂く EFEL のホームページに飛びますね。

丸谷：

どうもありがとうございました。

岸田：

EFEL 公式ラインを本格運営する前に、役員の方を対象にして試験機関みたいな設定の運用のプランありますか？

水野：

役員会メンバーで8月に始めて、現時点では最終調整の段階です、来週いっぱいテストして10月25日から皆さんに登録をお願いするという状況です。

岸田：

役員の方っていうのは、ここに集まっている人を対象にしてやって、満足度があったら5をかけるとか、そういうような形の運用っていうプランというのはありますかという質問でした。

田中：

公式ラインを設定して、これで今皆さんとやっている最中です。ちょうど、これでやったらいけるということで、今日発表させていただいています。

岸田：

前の会社でシステムやっていて、必ずシステムをやる前でそういうテストをやって、それで皆さんの反応を聞いた上で、最終的にGOサインをしていたってことがありましたので、あえてその質問をしました。役員会間でこれをクリックして、どうだった、そういう反応をやはり見た方がいいと思います。

田中：

舞台裏を明かしますけども、もし、会費の納入システムっていうか納入プラットフォームのことをおっしゃっているのであれば、すでに我々役員が年会費と寄付を支払って、それがどういう形で口座に反映されるかも全てテストが終わっています。それから、EFEL 公式ラインのことをおっしゃっているのであれば、ご覧の通りプラットフォームはもうできています。皆さんにできましたよって通知した時に、皆さんからお友達になってもらわないとあかんわけです、簡単に言えば。その手続きもその送られるラインの中に書いてあります。EFEL と入れて返信するだけで、お友達申請したことになりますので、それで、皆さんに、EFEL 公式ラインを見られるようになるということで、そのテストもすでに終わっています。役員同士の間で1ヶ月ぐらいかけて色々やり取りをしながら、そのラインが動くっていうこともすでにテストはしていますから、何度も言うようですけども、我々が構築したシステムではありません。あくまでラインであり、Stripe っていうプラットフォームを使っているだけです。

このラインが動くのか、それから決済がちゃんとできるのかってということもすでにテストを終えて、Stripe からの入金も確認しておりますので、運用上はこれで問題はありません。

岸田：

はい、わかりました。

丸谷：

支出計画に関してなんですけれども、66,000 円の公式ライン導入にかかる費用、導入費用だと思いますけれども、これは一過性のものでしょうか。今後、メンテで毎月の支払いが発生するのでしょうか。

田中：

66,000 円は、開設の費用とか導入の費用ってということではなくて、導入にあたってちょっとコンサルを頼みました。その、セキュリティではなかったですけども、どんな形で公式ラインのその中身を構築すればいいのか、技術的な面も含めてのコンサル料です。これが 6 か月分です。期間は今年の 10 月～来年 3 月までです。

中塚：

2 つあります。1 つは、26 年度の予算計画ですが、昨年度実績との増減欄ですが、デジタル化費用の 66,000 円が反映されていませんので反映して下さい。

水野：

申し訳ございません。修正しておきます。 ※上記添付の'26 年度年会費及び 寄付金予算計画は修正済み

中塚：

もう 1 つは、これとは別に EFEL 基金の予算計画です。これはありますか？

水野：

ESS は今年の 12 月～新しい役員メンバーとなりますので、来年の谷本杯スピーチ大会及びドラマの演劇指導が必要なのか学生の要望を確認して、その後 EFEL 基金運営委員会で決定する予定です。25 年度の支援費用支出合計は約 12, 3 万円ですので、同じ内容の支援行い、26/27 年度に EFEL 基金への寄付金が『0』となると 2027 年度は赤字となってしまいます。

中塚：

予算に戻りますが、2026 年単年度の収支が▼35,000 円と赤字になりますが、25 年度の期末残

高が 562,425 円あるので、これを明記すべきです。

水野：

指摘どうもありがとうございます。追記しております。 ※上記添付の'26 年度年会費及び 寄付金予算計画は追記済み

田坪：

提案というか意見ですけれども、EFEL 会費の報告とえる基金の方と別になっています。通帳も別で、会計も別ですけど、それがなんか非常にややこしいというか、わかりにくいというか。お金を集める時にも、いちいちこう説明しないといけないし、「寄付します」と言われた時に、「どちらの寄付ですか」といちいち聞かないといけないし。お金計算する時も全部別枠で、非常にちょっと、計算する時も、大変でした。これをなんか将来的に 1 つの口座で一緒にすることが不可能なのかなとずっと考えていましたけど、また色々都合もあるかもしれないですけど、ちょっと検討していただければと思います。

水野：

寄付金は、①EFEL 活動費用の寄付金はゆうちょ口座と②、ESS 活動支援の為の EFEL 基金は三井住友銀行口座と 2 種類あります。会員の方からも 2 つの口座があり、「どちらに寄付したら良いかわかりにくい」との声がでております。10 年前に設立された EFEL 基金は ESS 活動支援に特化して、EFEL 活動費とは明確に分けて寄付をお願いしておりますが、まだまだ私どもからの EFEL 基金に対しての説明不足かもしれません。引き続き検討させて下さい。

田中：

振り込みをされる方にとったら、ここの年会費の寄付金と EFEL の寄付金というのはやっぱりややこしい、確かに混乱されるということもありますし、反対に、管理の方から見ると、EFEL 基金は学生のために使うということで明確に分けて、そして三井住友銀行を作っております。両方ともちょっと振り込む側の方、そして管理側にするとそういうポイントもあるし、ちょっと難しいところですけど、引き続き検討させてください。

個人的意見を言わせてもらうと、EFEL 基金は ESS 創部 50 周年記念新しい事業としてスタートして来年で 10 年を迎えるので、1 回総括する必要はあるのかなという風に思います。口座が分かっている、それからお金の扱いがめんどくさいとかいう実務面じゃなくて、もう 1 回ですね、EFEL 基金というもの 10 年を総括して、今後どうするのかっていうスタンスから検討をやらないといけないと思います。これは役員会としての意見ではなく、個人の意見です。

※2026 年度計画事業活動全般報告(FEEL 公式ライン及び会費電子決済導入含む)は、全参加者賛成で承認

3. その他 ①創部 60 周年記念イベント

ESS創部60周年記念特別イベント(案)

【横浜中華街で本格的な中華昼食懇親会と船上で優雅なティータイム】

○開催日程：2026年5月16日(土)
○会費：約8,400円
○スケジュール
◆11:10 横浜中華街萬珍樓本店集合
◆11:30~13:30
昼食懇親会 (ESS創部60周年記念)
@横浜中華街萬珍樓本店
料理費用4,400円朱雀コース(税サ込み・飲み物除く)
広東料理の老舗・萬珍樓で本格的な中華を楽しむ
◆14:00
横浜赤レンガ倉庫集合
◆14:30~15:30
ティータイムクルーズ★“マリナー”ルージュ号★料金:4,000円
※横浜港の素晴らしい風景を船上から見ながら、ゆったりと流れる時間の中で癒される一時をご一緒に楽しみましょう!
◆15:30~16:30
横浜赤レンガ倉庫散策後解散

【ロサンゼルスでの日米ブロック交流会とドジャース野球観戦ツアー】

2026年
4月23日(木) 11~20時 東京/関西発(日本チーム)
4月24日(金) 6~14時 LA 空港着(日本チーム)
18時~カブス戦@D・スタジアム
4月25日(土) AM LA 市内観光
LA 空港着(米国チーム)
16時~懇親会@野々山さん宅
4月26日(日) 13時~カブス戦@D・スタジアム
PM LA 空港発(米国チーム)
18時~夕食会*宿泊される方のみ
4月27日(月) 全日 自由行動又はワイナリー訪問
4月28日(火) 9~15時 LA 空港発(日本チーム)
4月29日(水) 14~19時 東京/関西着(日本チーム)



国内イベントは神戸・名古屋地区でも開催検討中

アメリカツアー参加者募集中

水野会長より説明

・ESS 創部 60 周年記念祝賀会懇親会会場はカンデオホテルズ大阪枚方、日程は学祭日程に合わせて開催、日程は 2026 年 10 月 24 日(土) 又は 10 月 31 日(土) のいずれかの日で 2026 年 1 月頃確定

・特別イベント企画として、①日本各ブロック合同交流会と観光ツアー(横浜・名古屋・神戸にてランチとクルーズ) 26 年 5 月、②日本/アメリカブロックとの LA での交流会と野球観戦ツアー-26 年 4 月を計画中

3. 閉会挨拶 (山下副会長)

本日は、本当に忙しい中、定期総会にご参加くださり、ありがとうございます。私は今、活動推進・広報を担当させていただいております。1982 年の卒業で、第 14 代の ESS 部長をさせていただきました。所属は学部、ディスカッションでした。卒業して 43 年になりますけれども、それまでは仕事の都合を

言い訳にして、EFELには本当に無関心でノータッチでした。海外勤務から帰ってきた時に水野さんから声をかけていただき、懇親会にまず行ったのがきっかけで、それから何回か皆さんと顔を合わせるようになりました。そして6月19日の臨時総会で、丸谷さんの後任役員としてご承認いただき、活動させていただきます。

来年はESS創部60年ということで、例えばですね、毎年50人ぐらいの卒業生を出したとしたら、3000人ぐらいのESS OBOGがいらっしゃるわけですね。でもほとんどが私と同じようにこのEFELの事を知らないために無関心になっているのではないかと思っています。要は、ちょっとしたきっかけだと思いますけれども、私のように、お声がけしていただいてEFELの活動に入って行くことで、その中に入れば良さがわかりますので、継続してEFELに参加される方も出てくるのではないかなという風に考えております。ESS現役時代はですね、皆さんもそうでしょうけども、同じ年代の繋がりでしかなかったのですが、このEEFLでは、世代も、それから経験も立場も、全く違う方々が集まっていますので、共通するのは、関西外大ESSを基盤として、大学生活の多くを共に過ごしたということが共通となっていると思います。そのような中で、EFELを通して、新たな人間関係を築いて深めれば、世界が広がって、人生がより楽しくなると考えています。私たち役員はですね、1人でも多くの方をこのESSを基盤とする繋がりであるEFELに参加していただきたいということを目的に、魅力ある集まりやイベントを企画し、その情報をより効果的に発信したいとの思いで、今回はそのデータ化に臨みました。最後になりますが、今後のこのEFELが世代を超えた繋がりや学びの場として発展していくことを本当に願っております。以上もって閉会のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

以上